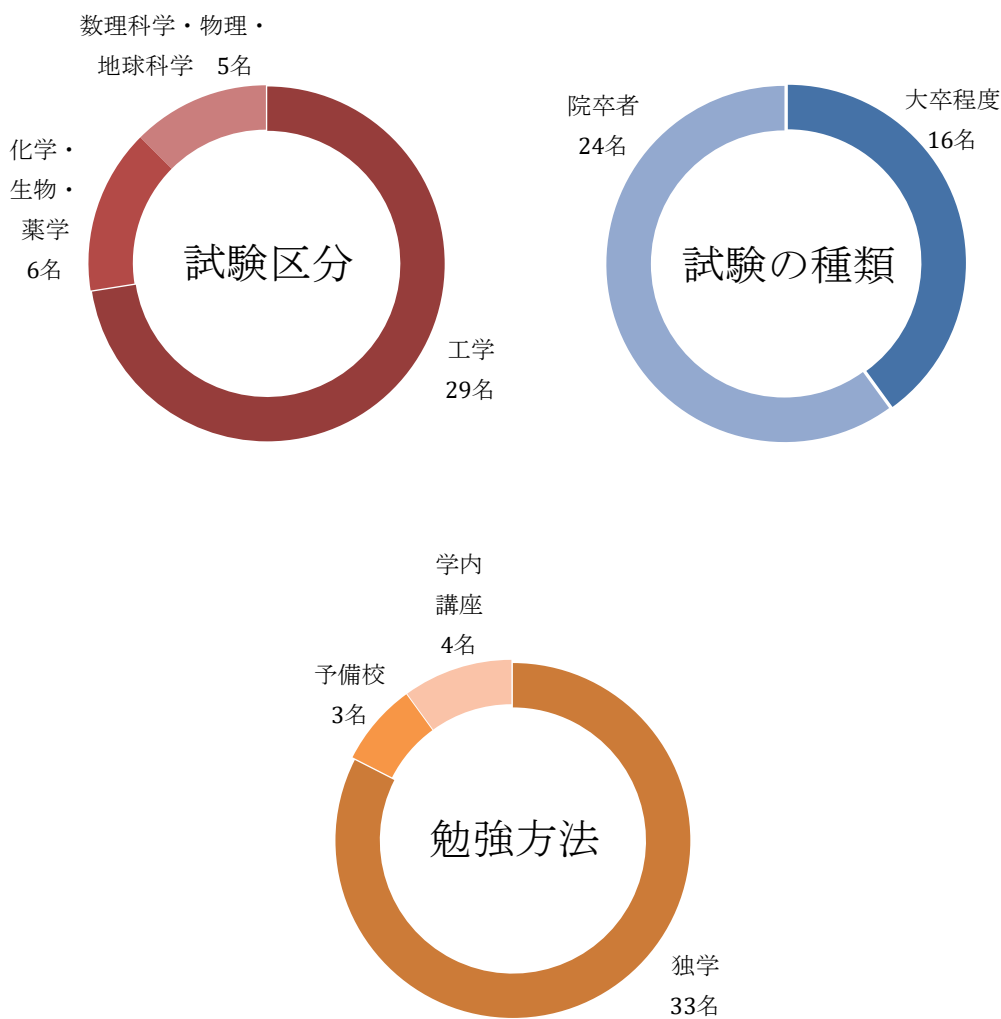


第二部 国家公務員採用総合職試験 体験記

この第二部では、内定者 6 名による国家公務員総合職試験の勉強・対策方法をお伝えします。

過去 5 年分 総合職理工系内定者の試験区分・勉強方法の内訳



本冊子に記載している試験方法や内容は、H30年度国家公務員採用試験について述べたものであり、次年度以降の試験とは異なる可能性があります。また、勉強方法や選

択問題のオススメ等については、あくまでも内定者個人の見解に過ぎず、もし事実と異なった場合でも責任はとりにかねますことをご了承下さい。あくまでも、本冊子は参考としてご覧いただければ幸いです。

(参考)

H27 年度の試験から、TOEFL (iBT)、TOEIC、IELTS、英検のスコアに応じた得点が試験の総得点に加算されるようになりました。例えば TOEIC なら 600 点以上で 15 点の追加、730 点以上で 25 点の追加です。詳細は人事院の Web サイトをご確認下さい。

－ 国家公務員総合職試験の内容の簡単な説明 －

試験区分には、大卒程度試験と院卒者試験の 2 区分に加え、専門科目による区分が存在します。また、試験は大きく 2 つに分けられ、「一次試験（マーク式試験）」、「二次試験（記述式試験 + 政策試験 + 人物試験）」があります。これらの筆記試験の過去問は人事院に請求することで入手できます。英語試験による加点システムもあるので、利用予定であれば別途英語試験（TOEFL (iBT)、TOEIC、IELTS、英検）を受験する必要があります。

◆ 一次試験

基礎能力試験（マーク式）

いわゆる教養試験で、大卒 40 題、院卒は 30 題です。問題は多岐に渡っており、国語力や英語力、頭の柔らかさ、知識力などが試されます。

専門試験（マーク式）

専門は大卒も院卒も 40 題です。選択する専門区分によって形式が異なるのでよく確認が必要です。

一次試験合格！！

↓ ↓ ↓

◆ 二次試験

専門試験（記述式）

完全記述式です。基本的には、複数の分野から 1～2 問選択して回答します。理工系においては専用の参考書などはあまりないので、大学の定期試験、院試、過去問や専門書による勉強が中心となるようです。

大卒程度

政策論文

専門試験と同じ日に行われる試験です。出題されたテーマに対し、与えられた 3 つの資料を使いながら、A4 裏表 1 枚に政策としてまとめていきます。配布資料は文章とグラフの両方が与えられ、英語の資料が用いられる場合もあります。

院卒者

政策課題討議

専門試験とは別の日に行われる試験です。配布される和文・英文の資料に目を通し、自分の意見などを加えた討論用のレジюмеを作成します。グループ全員にレジюмеを配布し、意見発表、集団討論、もう一度発表、という手順で行います。

人事院面接

当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。面接時間はおよそ 10～20 分程度で、面接官は 3 人（人事院の方と各省庁の現役の方らしいですが真相は不明）です。

国家公務員試験合格！ 官庁訪問へ！

PN：えいし（工学区分/大卒）

1. 勉強量について

【一次と二次をどうやって両立したか】

二次の試験内容は院試の試験範囲と被っていたので、一次の勉強を重点的に行いました。特に一次の数的推理に慣れるためになるべくたくさんやりました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランス】

理系は、専門で稼げれば十分だと思っていたので、専門を7~8割ほど取れる見込みがあれば、教養に力を入れていいと思います。政策論文に関しては、的外れなことを書かなければ、大きく減点にならないので、数回だけ練習して要点だけは外さないように意識しました。

【英語試験の勉強について】

英語試験で加点するつもりはなかったなので、勉強しませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

経済・地理・日本史などの社会系の問題は、分からない問題が多いので、勉強はせず他の分野でしっかり取れば大丈夫かなと思っていました。英語や国語は不安ではなかったなので、あまり慣れていない数的推理を重点的に勉強しました。

【専門試験（工学）】

- 専門一次
僕は、材料力学・流体力学で受けたのですが、これらと院試の範囲が被っていたので、専門一次は過去問をやったり、授業で使っていた教科書を読んだりしていました。
- 専門二次
二次も一次とほぼ同じで、過去問や教科書を読んでいました。正直なところ、二次の勉強をすれば、一次の勉強にもなるので、二次の記述問題を重点的にやればいかなと思います。

【人事院面接】

外部の人とする初めての面接だったので、緊張しましたが、面接官の方は非常に笑顔で優しく問いかけてくれたので、かなり緊張がほぐれました。基本的に面接前に提出する調査書に書かれていることしか聞かれないので、自分が学生時代に注力してきたことや一番苦労したこと等、よく調査書の内容を見返しておくことが大切かなと思います。

PN : カフェイン (工学区分/大卒)

1. 勉強量について

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次試験は 11 月から、二次試験は 3 月から始めました。専門に関しては二次とかぶる部分が多いので、始めから二次試験対策をすることで時間を節約しました。両立の仕方は、飽きたらすぐ別の勉強をするという感じで (笑)

【専門と教養、論文/課題討議のバランス】

最も時間をかけたのは専門科目です。教養は取れそうなところの強化と興味のある部分 (行政法) を少し勉強するくらい。論文は試験 2 週間前に、同様の形式で 3 回ほど模擬試験を行いました。勉強量のバランス的には 5:2:1 くらいです。

【英語試験の勉強について】

TOEIC などの加点を利用するつもりがなかったため、勉強しませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

主に過去問と参考書を解いて対策しました。おそらく 5 年分くらい。数的・判断推理に力を入れて得点のベースを作り、後は行政法や英語を暇なときに勉強する程度でした。参考書は「スーパー過去問ゼミ」をお勧めします。

【専門試験 (工学)】

● 専門一次

選ぶ可能性のある科目の過去問を一通り解いてみて、苦手な分野 (水理学、構造力学) と極めたい分野 (環境工学、衛生工学、土木計画) を重点的に勉強しました。勉強方法としては、二次対策レベルを勉強し、一次過去問を解きました。過去問の出来を見て苦手分野をおさらい→別の年度の過去問を解く、というプロセスを繰り返しました。

● 専門二次 (水理学、環境工学・衛生工学)

勉強した科目は水理学、環境工学・衛生工学、構造力学、土木計画学で、前者 2 科目を実際を選択しました。所属している大学のコース主催で対策講座があり、過去問の解説を受けることができたため、非常に助かりました。

試験後の感想としては水理学に関しては問題が難しく、正直選択しなければ良かったと思っていたのですが、幸いにも周りも解けていなかったからか点数は悪くありませんでした。

【政策論文】

総合職試験のものかどうかは忘れましたが、時間を計って実際に解いてみるといった練習を行いました。少しの訓練である程度点数が取れるようになるので、コストパフォーマンスの良い項目だと私は思います。また日頃から社会問題に関心を向けていると、思考を組み立てやすくなって良いと思います。

【人事院面接】

研究室の先輩や友達と面接練習をしました。個人的に、どんな質問にも臆することなくずれていない返答をすることが一番重要だと思います。私は始めに「土木とは何か、説明してください」という予想していなかった質問を受けました (笑)。面接の評価が高いと大きな加点がもらえるので、しっかり対策する価値はあると思います。

PN：グー（工学区分/大卒）

1. 勉強量について

【一次と二次をどうやって両立したか】

専ら専門試験の一次、二次共通の範囲を勉強していました。一次試験の直前には専門試験の一次のみで使う科目を少し勉強しました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランス】

専門試験対策ばかりしていました。

【英語試験の勉強について】

英語加点のために TOEIC を受験しました。制限時間がきついで、悩まずに進むことが大事です。また初めて受ける人は出題形式を受験前に確認しておくだけでも点数が違ってくると思います。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

過去問をチェックして問題形式を確認しました。

【専門試験（工学）】

● 専門一次

工学に関する基礎は、予備校の個別指導のアルバイトで高校物理や化学を教えていたのが役立ちました。

● 専門二次（原子力工学（原子核・放射線）原子力工学（原子炉・核燃料サイクル））

過去問を解きました。解答はないので図書館やインターネット上で資料を集めました。二次試験の直前に放射線取扱主任者の資格試験のための参考書を入手したのが役立ちました。

【政策論文】

特に対策はしていません。

日頃から色々な情報にアンテナを張って問題意識を持つことが重要かと思います。

【人事院面接】

大学のキャリアサポート室の方に面接カードを見せてアドバイスをもらいました。面接のマナーについても少し教わりました。

PN：フィフィ（工学区分/大卒）

1. 勉強量について

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次試験の内容と二次試験の内容がかぶっていたので、二次の勉強を中心にしながら、一次も確認しておく、という感じでした。勉強量は、授業と研究もあったので3月中旬ごろから一日最低2時間は意識していました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランス】

専門がしっかり取れたら何とかなるだろうと考えていたので、ほぼ専門の勉強にあてていました。教養は一応何年分か過去問は解きましたが、運頼みの気持ちもありました（笑）。論文も何題か解いておくぐらいです。

【英語試験の勉強について】

もともと学校で受けていたので、試験期間中に英語の勉強をすることはありませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

とにかく過去問ばかりをやっていました。時事問題に関しては、市販の公務員試験対策用の時事ネタ本を時間がある時に見ていました。

【専門試験（工学）】

● 専門一次

序盤の数学や物理の問題は、解くというより、大学受験などを思い出すイメージの方が強かったので、高校の参考書などを見ていました。一次の選択は二次試験の内容と被るので、二次試験の勉強をしていると良いと思います。

● 専門二次（熱力学、原子力）

過去問を見ながら、わからない部分はその周辺部分を含めて学習していく、という流れが効率的かなと思います。ある程度パターンがあるのかと考え、問題を予想していましたが、当日は見事に裏切られました（笑）

【論文】

対策という対策より、実際に何度か書いてみて、あとは知識かなと思います。世の中のニュースをよく見て、何が問題か、どう解決していくかを考えるといい練習になると思います。

【人事院面接】

志望動機というよりは、人となりを理解するような質問が多かったと思います。学生時代に頑張ったことなど、一般的な就活で聞かれる質問を整理しておく方が良いと思います。

PN：みんぱる（工学区分/院卒）

1. 勉強量について

勉強期間：1 次試験が 2 週間、2 次試験が 3 週間

【一次と二次をどうやって両立したか】

公務員試験の受験を決めたのが直前だったため、1 次試験終了までは 1 次試験に集中しました。勉強期間がかなり短いですが、受かるために取捨選択をしながら対策しました。勉強期間中は研究を止め、図書館に籠りっぱなしで勉強していました。

公務員を少しでも考えている方はもっと早く勉強を始めることをお勧めします。

【専門と教養、論文/課題討議のバランス】

ほとんど専門試験の勉強に費やしました。

【英語試験の勉強について】

特段、公務員試験に向けての対策はしていません。

修士 1 年に研究留学をしたため、留学後すぐ TOEIC を受けてスコアを取得しました。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

英語に自信があり、民間の就職活動で使った SPI の数的判断処理の成績がよかったので、前日に過去問を 1 年分解いただけでした。結果、数的判断処理の問題が難しく、落ちかけました。英語は毎年レベルにバラつきがないように感じており、また 1 問目からなので自信を持って解けるようにしておくと思いが楽になると思います。

【専門試験（工学）】

- 専門一次(数学・物理・構造力学・土質力学・環境工学・衛生工学など)
前半の高校物理の復習に多くの時間を割きました。高校生の時の問題集を使っていました。高校物理の電気・電磁気系をやっておく後半の電磁気学などでも 2~3 問得点が取れるのでそこは特に重点的にやっていました。後半は過去問と市販の問題集を使い、演習を重ねました。後半は、4~6 科目から 20 題選ぶ方式なので、6 科目の全 30 問から 20 問選んでできるだけ得点を取れるようにしました。
- 専門二次(土質力学・環境工学)
年によって問題で当たり外れがありそうだったので、上記 2 科目の他に構造力学と土木計画、衛生工学は勉強していました。試験開始数分前に土木計画と環境工学はどちらかしか選択できないことを知り、焦りました。2 科目に絞ると外れの時に得点が落ちるので 4 科目分くらいは準備することをお勧めします。勉強は、暗記系は電車で暗記し、計算系は過去問を見て出る分野を絞り込み大学図書館の参考書を使い演習を重ねました。

【政策課題討議】

公務員試験に向けた対策はしていません。ただ、民間の就職活動で受けた企業のほとんどでグループディスカッションがあったため、グループディスカッションの対策講座は就職活動開始前に受けていました。その講座と民間の選考での経験を生かして試験に臨みました。

【人事院面接】

研究室で公務員試験を受けた先輩方に ES は添削してもらい、先輩方が面接官ならどこについて質問するかを聞いて準備しました。先輩の意見や民間企業の就職活動中の面接の経験をベースに聞かれそうな質問を箇条書きにし、自分の回答を事前に作成しました。

PN：よっしー（工学区分/大卒）

1. 勉強量について

【一次と二次をどうやって両立したか】

一次試験が終わるまでは一次試験の勉強を、二次試験の勉強は一次試験の後に行いました。専門試験は一次・二次試験で重複する分野は力を入れて取り組んでいました。

【専門と教養、論文/課題討議のバランス】

専門：教養：論文＝10：5：1

大学で学ぶ学問分野と、公務員試験の専門分野が全く違い、0 から独学で勉強する必要がありました。そのため、専門試験に大きく時間を割き、底上げを図りました。

【英語試験の勉強について】

英語試験は使用しなかったため、特に勉強はしていませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

過去問を繰り返し解く、という勉強方法でした。ほぼ知能分野（文章理解、判断・数的推理、資料解釈）のみ対策し、特に判断・数的推理を重点的に勉強しました。はじめは知識分野（自然科学、人文科学、社会科学）も勉強していましたが、途中で一切やめました。ただし時事問題の対策のみ行いました。

【専門試験（工学）】

- 専門一次（技術論、構造力学・土木材料・土木施工、土質力学・水理学、環境工学・衛生工学、土木計画）

公務員試験用の参考書を 2 周ほどした後、直近の過去問を解きました。完全に独学であったため、友人から教科書を借りたり、わからない問題を訊いていました。知識系の科目は某 IT の巨人の先生にもお世話になりつつ、自分独自の参考書のようなもの各科目で作りました。

- 専門二次（水理学、環境工学）

水理学、環境工学、土質力学の 3 科目を勉強しておき、本番当日に解きやすい科目を 2 つ選びました。独学であったため、すぐに点数に結び付く知識系の環境工学で徹底的に点数を稼ぎ、水理学か土質力学のどちらかで少し点数を取るという戦法です。最終的な答えだけでなく、途中計算も点数に入れてくれると信じて、答えが分からなくても何かしら書いて解答用紙を埋めました。本当に途中点をくれたかどうかは.....。

【政策論文】

書く文章量（約 1800 字）に慣れるということを中心に対策しました。過去問を数年分解き、解答用紙を全て埋めるだけの分量を書くんだという意識づけと慣れが大切かと思えます。内容に関しては時事対策のようなもので簡単に間に合わせました。

【人事院面接】

面接カードから考えられる質問に対する回答を練り、Q&A をたくさん作りました。本番の面接でも、「ストレス解消法は何ですか？」以外の質問は全て面接カードに書いた内容に関するものだったため、比較的スムーズに答えることができました。噂によるとハローワークでも面接対策をしてくれるようですが、それを知ったのが本番直前であったため利用しませんでした。